

## そうめんと農業についての市政懇談を開催しました

今年度の市政懇談会は開催方法を見直し、分野(テーマ)を設定して、関係者・団体などに参加を依頼して行いました。

11月に、市の特産品である「そうめん」と基幹産業である「農業」の分野について、関係者と松本市長が懇談しました。



### ●そうめん製造業分野

11月12日、そうめん製造業関係者17人が参加し、そうめん産業振興について懇談を行いました。

まず、今年10月に商工観光課内に新設されたそうめん振興班から、「生産者との取り組みの連携により、島原手延そうめんの認証制度の確立と販売単価の底上げや消費拡大を図りたい」との構想が示されました。

参加者からは、「販売単価の上昇は、個々の事業所単位では難しい」、「若い世



代が意見交換できる場をつくりたい」、「原材料入荷から製品出荷までの工程を衛生管理する「ハサップ導入」についてのアドバイスや施設整備への支援がほしい」、「生産者自らが品質を上げ、認証制度を活用して価値を上げていくべき」などの意見がありました。

市長は、「島原手延そうめんの認知度を高め、全国の皆さんに買っていただく取り組みを進める」と強い意志を示しました。

規模や状況が様々な製造業者との懇談は、市はもとより参加者同士にとっても今後の事業展開を考える上で有意義なものとなりました。

### ●農業分野



11月16日、農業分野の将来を担う若い世代や長崎県農業士ら12人が参加し、高齢化が進む農業の現場や担い手不足、今後の農業などについて懇談を行いました。

参加者からは、農地中間管理機構を活用しての農地基盤整備事業に関する質問があり、市は具体的な事例を挙げ、採択条件や条件に合わない場合の他事業の活用を紹介しました。

また、「市外からの新規就農者に対しての補助や誘致の情報発信不足」、「農業用機械リースに対する補助制度の創設」、「中古ハウスを補強する事業への支援制度創設」などの意見や、「人手不足対策のための外国人労働者の受け入れの取り組み」についての要望が出た一方で、「若者が地元にとどまるような環境づくり」も必要という意見もありました。

市長は、「今後、検討してできることは構築し、市の農業振興にしっかりと取り組むたい」と話しました。若い世代を中心とした参加者の日々感じていることや考えていること、今後の農業に対する姿勢や将来に向けた計画を聴き、今後の農業施策の参考となる懇談会となりました。

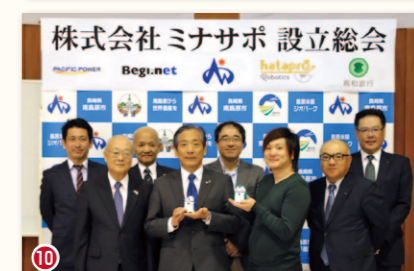
※懇談会の概要については、市ホームページをご覧ください。

皆さんにとって2018年はどんな年でしたか？

市では、原城跡が世界文化遺産に登録されるなど大きな出来事がありました。ここでは、写真とともに市の1年を振り返ります。

## 振り返る南島原市の2018

- 1月** 南島原市IoT推進コンソーシアムを設立 ①  
「島原半島ジオパーク」がユネスコ世界ジオパークに再認定
- 2月** 島原・天草一揆380周年記念講演会開催
- 3月** 「原城一夜城」を新たに制作  
「第Ⅱ期南島原市総合計画」を策定  
元佐田の富士関の化粧まわし贈呈・展示除幕式 ②
- 4月** 海の玄関 ロノ津港ターミナル新築着工 ③
- 5月** 長崎ウエスレヤン大学と包括連携協定を締結 ④
- 6月** 南島原市長・市議会議員選挙  
ショートフィルム「夢」が国際短編映画祭で第7回観光映像大賞を受賞 ⑤
- 7月** 「原城跡」を含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録 ⑥  
一般県道山口南有馬線(白木野工区)が開通 ⑦
- 8月** 長崎県消防ポンプ操法大会で南有馬地区団がポンプ車操法の部で3位入賞
- 9月** 地域交流拠点施設「アートビレッジ・シラキノ」がオープン ⑧
- 10月** 商工観光課内に「そうめん振興班」を新設  
民泊の修学旅行生受入れが5万人を突破 ⑨  
地域商社「株式会社ミナサポ」を設立 ⑩
- 11月** 九州オルレ南島原コースが3周年を迎える ⑪  
株式会社ソラシドエアと包括的連携協定を締結 ⑫  
「島原半島ジオパーク」日本ジオパーク認定10周年を迎える
- 12月** 南島原市観光ショートフィルム第二弾の制作を決定 (6ページ) ⑬



今年の干支は「亥」。2019年は正確には「己亥(つちのといきがい)」となります。亥年は、十二支の中で最後の12番目の年であることから、次の世代(サイクル)へ向かう準備をする年という意味があるそうです。また、動物の猪の肉は 万病を予防するといわれていることから、亥年は「無病息災」の意味もあるとのこと。2019年は無病息災で目標に向かって「猪突猛進」していきたいですね。